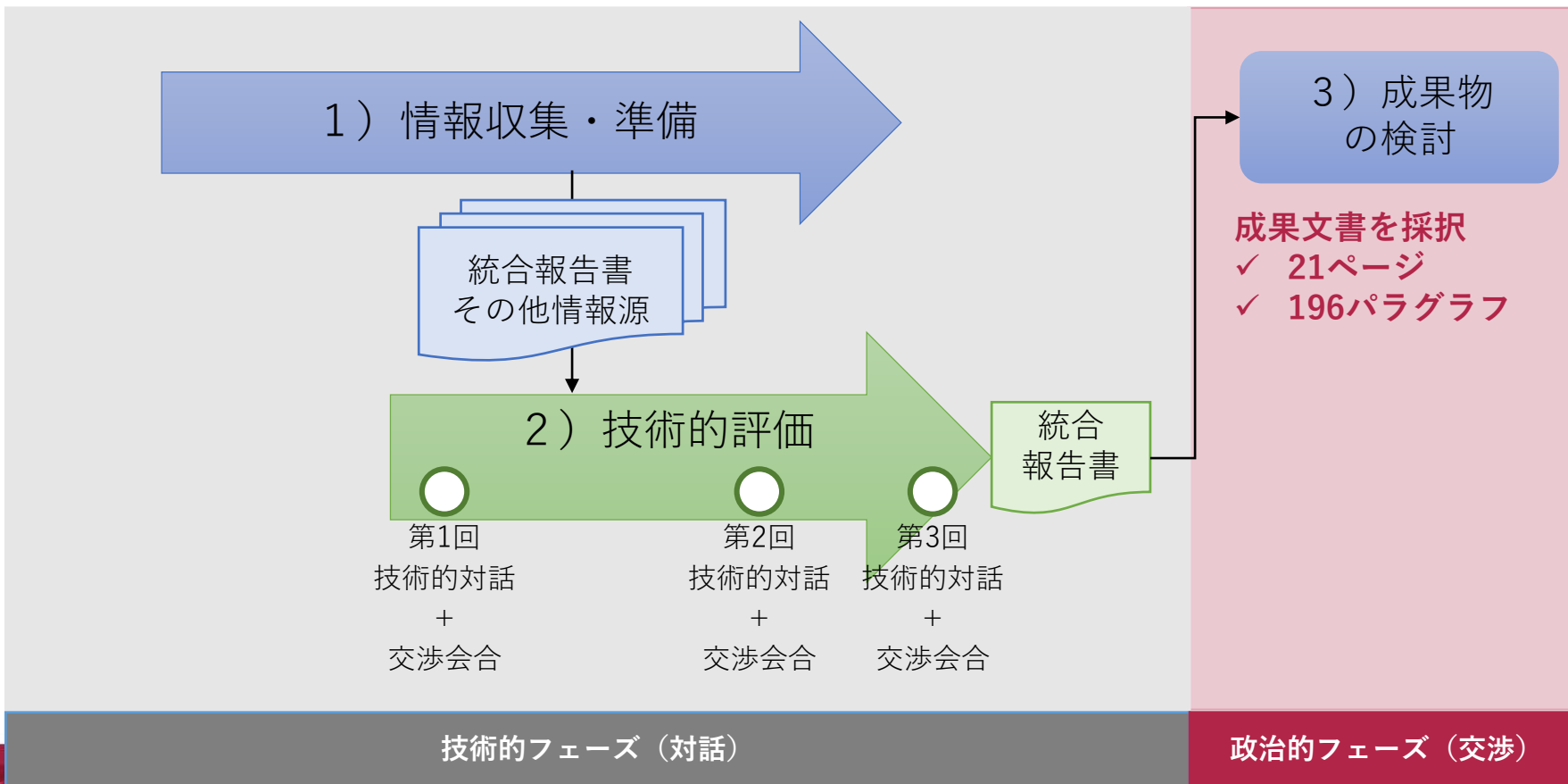


# グローバル・ストックテイクに関する COP28の成果

気候変動とエネルギー領域 フェロー  
津久井 あきび

# 第1回グローバル・ストックテイク（GST）、成果文書採択！

パリ協定の長期目標達成に向けた**世界全体の進捗**を**5年毎**に評価する仕組み  
**削減目標（NDC）の更新・強化**と国際協力促進のために**情報を提供する**



参照：津久井、梅宮（2021）「解説：パリ協定・第1回グローバル・ストックテイク（GST）」

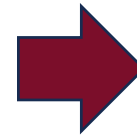
# 2024年以降の気候変動対策の道筋が示された

合意文書には、進捗評価結果に加えて、  
様々な主体が取るべき行動、様々な主体に期待される役割も含まれる

## 評価結果

進捗・実施状況

取り得る対策や機会



## 第1回GSTのフォローアップ

各国政府によるフォローアップ

気候変動枠組条約（UNFCCC）  
を通じたフォローアップ

非政府主体によるフォローアップ

# 緩和の評価結果

## 進捗・実施状況：技術的対話を通じて議論されてきた内容に改めて「合意」

- 全ての国が削減目標（NDC）を提出し、68カ国が長期戦略を提出した。
- パリ協定採択以前は、4度上昇すると予測されていた世界の気温だが、NDCが実施されれば、2.1~2.8度の範囲に収まる。
- NDCが完全に実施されても、気温上昇を1.5度に抑えることは難しく、既存の政策ではNDC目標を達成することも困難。



## 1.5度目標の達成に向けた緊急行動と支援の必要性を強調

### 今後取り得る対策と機会：

- エネルギー部門における新たな合意（一部抜粋）
  - ✓ 2030年までに再生可能エネルギーの容量を3倍にし、エネルギー効率改善率を2倍にする
  - ✓ 今世紀半ばよりかなり前又は半ばまでに、ゼロ・カーボン燃料や低炭素燃料を活用したネット・ゼロ・エミッションのエネルギーシステムに向けた取り組みを加速する
  - ✓ 2050年までにネット・ゼロを達成するために、エネルギーシステムにおける化石燃料から脱却する
- 交通部門の排出削減
  - ✓ インフラ整備やゼロエミッション車・低排出車の迅速な導入
- 2030年までにメタンを含めた非二酸化炭素ガスの排出を大幅に削減
- 6条（炭素市場メカニズム）の実施加速
- 生態系／生物多様性／沿岸生態系の保全、2030年までに森林減少・劣化防止に向けた取り組み強化
- 持続可能なライフスタイルや持続可能な消費パターンへの移行



## 対策や機会を実施していく必要がある

# 各国政府によるフォローアップ

## 1. 気候行動の強化

- ✓ 特定された取り得る対策や機会を気候変動対策や支援の強化に取り入れることが期待される。

## 2. NDCの更新、強化

- ✓ 各国は、2024年11月~2025年3月に、次期NDCを提出する
- ✓ 次期NDCは1.5度目標との整合性を確保する
- ✓ 全ての種類の温室効果ガス、セクターを網羅した経済全体の排出削減目標を提示する
- ✓ NDC策定にあたり、GSTの成果からどのような情報を得たか記述する
  - ◆ GSTも成果がNDC策定にどのように反映されているかに関する知識や事例の共有を行うためのグローバル・ストックテイク対話が2024年6月から毎年開催されることが決定。

“グローバル・ストックテイク”を踏まえ、来年から2035年度に向けた新たな目標の検討を始めたい”

**日本でも削減目標の検討に向けた動きが進む**

2023年12月3日NHK日曜討論

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20231203/k10014276441000.html>





## 気候変動枠組条約（UNFCCC）を通じたフォローアップ

- UNFCCC下の組織やプログラムに対し、第1回GSTの成果を今後の作業計画に取り入れるよう要請
- 既存の枠組みの活用の例
  - ✓ 資金メカニズムや適応基金を通じた途上国の能力構築支援の強化
  - ✓ 能力構築支援プログラムを通じた途上国のNDC策定、6条実施などの支援
- 新規に立ち上がるプログラムや対話の例
  - ✓ 技術実施プログラムの設立
  - ✓ 適応資金に関する閣僚級対話の開催
  - ✓ 山岳と気候変動に関する専門家対話の実施
  - ✓ 子供（children）と気候変動に関する専門家対話の実施

既存の仕組みや新たに立ち上がったプログラムを活用し、GSTの成果を効果的かつ効率的にフォローしていくことが期待される

## 非政府主体によるフォローアップ

パリ協定の目標達成に向けた全体としての進捗への貢献、気候変動への対応、野心強化における、非政府主体の重要な役割と積極的な関与が認識された

非政府主体に期待されること（決定文書より）：

- **自主的な取り組みにおいて、第1回GSTの成果を考慮すること**
- 各国政府との協働により取り組み加速すること
- パリ協定と持続可能な開発目標（SDGs）の達成を相乗的かつ効果的に進めること
- 共同研究、人材訓練、プロジェクト実施や投資などにおいて、様々なレベルでの国際協力、意見交換、経験共有を促進すること

**GSTの成果は今後の気候行動の指針になる**  
具体的な活用方法については、実施しながら検討していく必要がある

**ご清聴ありがとうございました。**  
**Thank you very much for your attention.**